

第48回スキルアップセミナー in 東京

開催報告



開催日時：平成29年5月28日（日）13時～17時までの実質4時間（受付12時30分～）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会*

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することが出来る。
グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。

KTSM実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO法人口から食べる幸せを守る会* 理事長 JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM実技認定者
金 志純	社会福祉法風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
甲斐 明美	医療法人社団 東山会 調布東山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
黄金井 裕	NPO法人口から食べる幸せを守る会*理事 日本医科大学多摩永山病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM実技認定者
山下 ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM実技認定者
劔持 君代	群馬リハビリテーション病院	看護師 KTSM実技認定者
佐藤 作喜子	JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院	管理栄養士 KTSM実技認定者

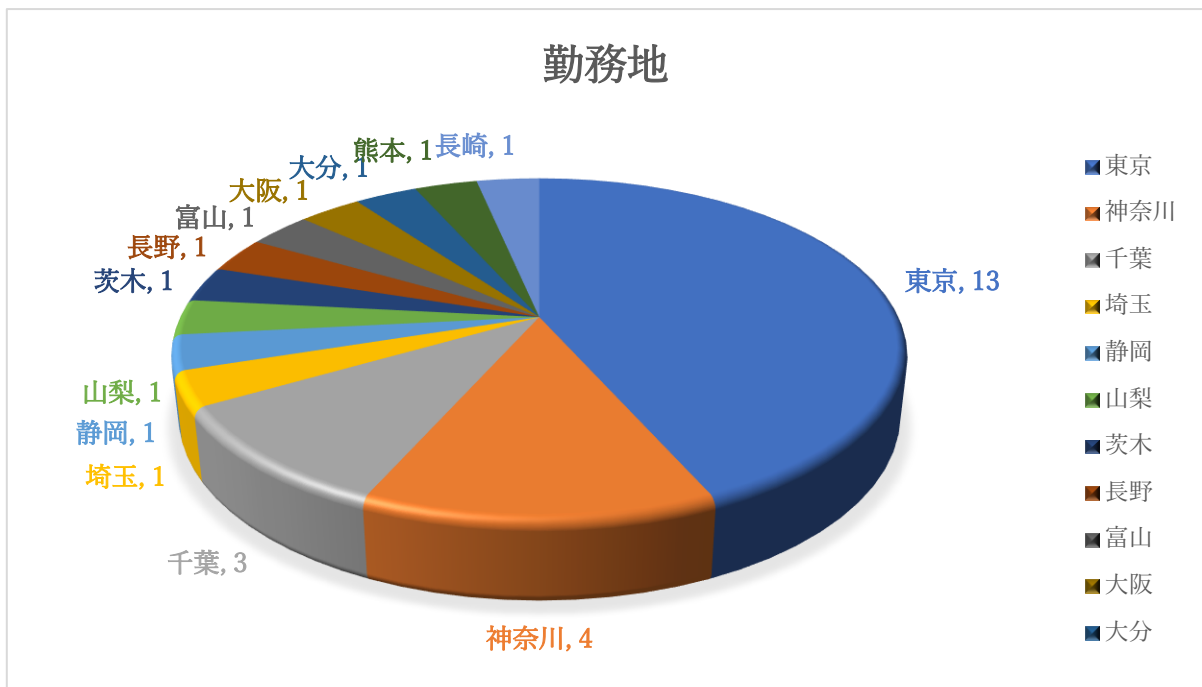
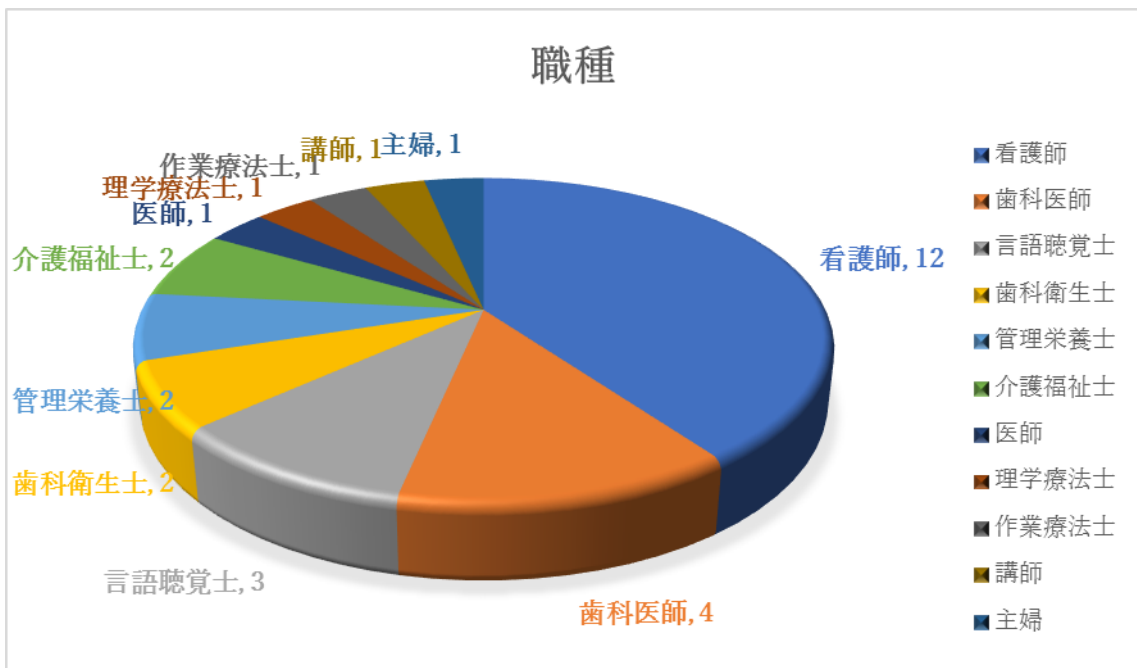
セミナーサポート一覧

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
----	----	----------------

石黒 慎一	JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	摂食嚥下障害認定看護師
古山 梨佐	イムス富士見総合病院	看護師
山下 ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM 実技認定者

アンケート集計結果 (参加者 30 名 回収率 50%)

Q1 職種と勤務先の都道府県



Q2 本日のセミナーに参加した感想や自分を振り返って考えたことをご記入ください

◆2回目の参加だったので、前回の事を振り返る事が出来て、演習も分かりやすく、参加してよかったです。

◆看護師さんのように評価をしなさいと言われもできず、私の来るところではなかったかなとも思いましたが、まず左手で介助できるようになるところからと思い、時間がある時は、左手で食事を食べるようにと今日から始めました。理屈ではまだまだ分からないところが多々ありますが、できることから初めて行きたいと思います。

参加させていただき考えさせられる事がたくさんありました。今後につなげて行こうと思います。ありがとうございました

◆高齢者に対する介助方法のポイントを知ることが出来ました。スプーンの運び方は、習得してスムーズに出来るようになりたいです。

◆ポジショニング、先行期など、食べる前の準備が、大切な事に気がつきました。また、自分が、食事介助される事で、視線の位置や、スプーンが来る方向で、怖さなどが、わかりました。

◆食事時の姿勢や介助の仕方次第ではもっと食べられたかもしれない方に、環境調整もせずに食べられないと評価していたかもしれないことがおそろしく、申し訳ないと思った。

◆臨床1年目の時は口腔内や咽頭の機能について考える事ばかりで、頸部から下については殆ど意識が向いていませんでした。2年目の後半から言語聴覚士として嚥下や言語について理学療法士や作業療法士と患者様の事を相談するための共通言語が必要だと思い、他職種が行っている勉強会に参加させて頂く様になり、今回は小山先生のセミナーに参加させて頂きました。PTやOTが嚥下をどの様に考えているかを勉強する中で姿勢の大切さは分かって来たつもりですが、患者様にとって良い姿勢の調節の仕方や病棟にお願いしがちで自分に足りていなかった食事介助の技術等、すぐにでも自分の患者様に還元できる技術や心掛けが一杯詰まった素晴らしいセミナーだったと思います。経腸栄養は口から食べる時と比べて栄養の吸収率は1/3であるという栄養面もそうですが、嚥下に関わる専門家として口から食べるという事に包括的に関われる様に、また次の機会にも是非、参加させて頂きたいと思います。

◆訪問歯科診療に携わっています。タオルを使用しての姿勢保持や、ベッドの角度は本からの知識として実行していますが、その本当の意味、つまりは、患者さんにとってどのようにしたら快適にケアが受けられるようになるのか、という視点が私には欠けていたことに本日は気づかせていただいたように思います。最近では、在宅の患者様のご家族から、食事介助の質問を受けることも多くなってきました。研修で学んだことをしっかりと自分のものにして、患者様のお役にたてるように頑張ります。欲を言えばもう少し長い時間、実技が欲しかったです・・・

小山先生のお話しを直接伺うことが事ができ、有意義な時間をありがとうございました。

◆今まで自分がしてきた姿勢調節や食事介助がいかに中途半端であったかを痛感いたしました。そしてその中途半端な状態で患者の嚥下機能評価することは非常に罪なことだと感じました

◆自分の言動がこんなにも配慮の足りないものだったのかと反省を通り越して衝撃でした。患者役の方が体感を通して先生の説明を理解しやすく覚えやすかったです。ただこなすのではなく、ひとつひとつの意味を念頭に入れながら行っていこうと思いました。また実習は口腔ケアの際にとっても必要なことだと思いました。食べられない原因として全体の背景をみることもせいぜい家族の状況と身体機能を考える程度できちんと何故？と原因を考えることがありませんでした。これから先、セミナーに参加して学んでいき、他の職種の方々と連携をとっていけるようにしたいです。同僚に説明し実習をしましたが思うようにはいかず。しっかり練習して次のセミナー時に解決できるようにします。

◆ついつい自分本位のやり方になってしまいがちだったので、患者様の立場に立つことがとても大切だと思いました。一口一口の間が時間が長いとご指摘を受けましたが、それに関しては、いまいよくわかりません。その方の食事のペースがあるのではと思いましたが今後自分でもよく考えて訓練したいと思いました。

◆こんなにも多くの職種の人が、摂食嚥下に興味を持っていることに驚いた。ST や看護師だけでなく、栄養士や歯科医師も含めたチームでの関わりをもっと持ちたいと思った。実際に自分が患者役となることで、気が付くことも多く、院内の学習でも取り入れていきたい。

◆病院勤務の PT なので、あまり食事場面に関わることがないのですが、嚥下や摂食動作のために姿勢を作るということを通じて PT なりに担える役割があることを嬉しく感じました。折角なので、食事のために必要な姿勢作りを地道に追求していけたらと思います。

また PT の枠に捕らわれず、栄養面なども含めて食事に関わることを全般について知りたいという思いに駆られました。

こちらも地道に学んでいきたいと思います。セミナー自体の感想としては、午後の 4 時間だけとなると、どうしても体系的に学ぶには短く感じました。自学しつつ、またの機会にセミナーに参加させていただこうと思っていますので、その折はよろしくお願いします。

◆本日はありがとうございました。実習ではたくさんのことを教えていただき早速一緒に実習を受けた方々つながり文字お越しをやりました。本で読むまた見学するのとは大違いで実際にやってみるやってみると ああそういうことかとわかることが多く大変勉強になりました。もう一回基礎コースを受けたいと思っています。それまでに復習をして勉強しておきたいです。

Q3 食べる支援で何が難しいですか？

◆摂食嚥下機能評価	7 人
◆他スタッフや他職種との連携	4 人
◆姿勢調整	2 人
◆食事介助	1 人
◆心理的支援	1 人

Q4 口から食べることを阻害している大きな要因は何だと思えますか？

◆食べることへの理解不足	5 人
◆包括的支援スキルが普及していない	3 人
◆食事介助スキルの不足	2 人
◆VF・VE 検査が優先されること	1 人
◆その他	4 人

- ・患者さんを重視するのではなく責任問題を重視するからではないか
- ・摂取量の少ない方への施設の受け入れ体制
- ・食事介助をゆっくりする時間がない

Q5 あなたは将来食べるのが難しいと判断されたらどんなことを望みますか？

◆最期まで食べ続けたい	10 人
◆代替栄養（胃ろうや点滴など）は受けたくない	2 人
◆その他	3 人

- ・寿命としての食べられないということであれば、看取りとしての介護を受けることを望みます。そうやって亡くなって行く人の最後の時に本人がアイスクリームが好きと言う人がいて、お部屋に小さなドラえもんの冷蔵庫があり、最後の時を迎えるときに口を湿らせるのにアイスクリームを使っている方がいました。これが本当に口から食べるということにこだわるということなのだと思身は思いましたので、私もそんな最後を迎えたいと思います。
- ・その時になってみないと分からないというのが正直な気持ちです。

- ・ 食べることはもちろん続けたいと思いますが低栄養のままリハビリさせられている方などを拝見すると食と栄養と筋力の関係がバラバラなような気がします。代替栄養はそれまでのつなぎ また低栄養を防ぐ手段でもあると思うので一概にこれだけとは言い切れないと思っています。

～セミナー風景～

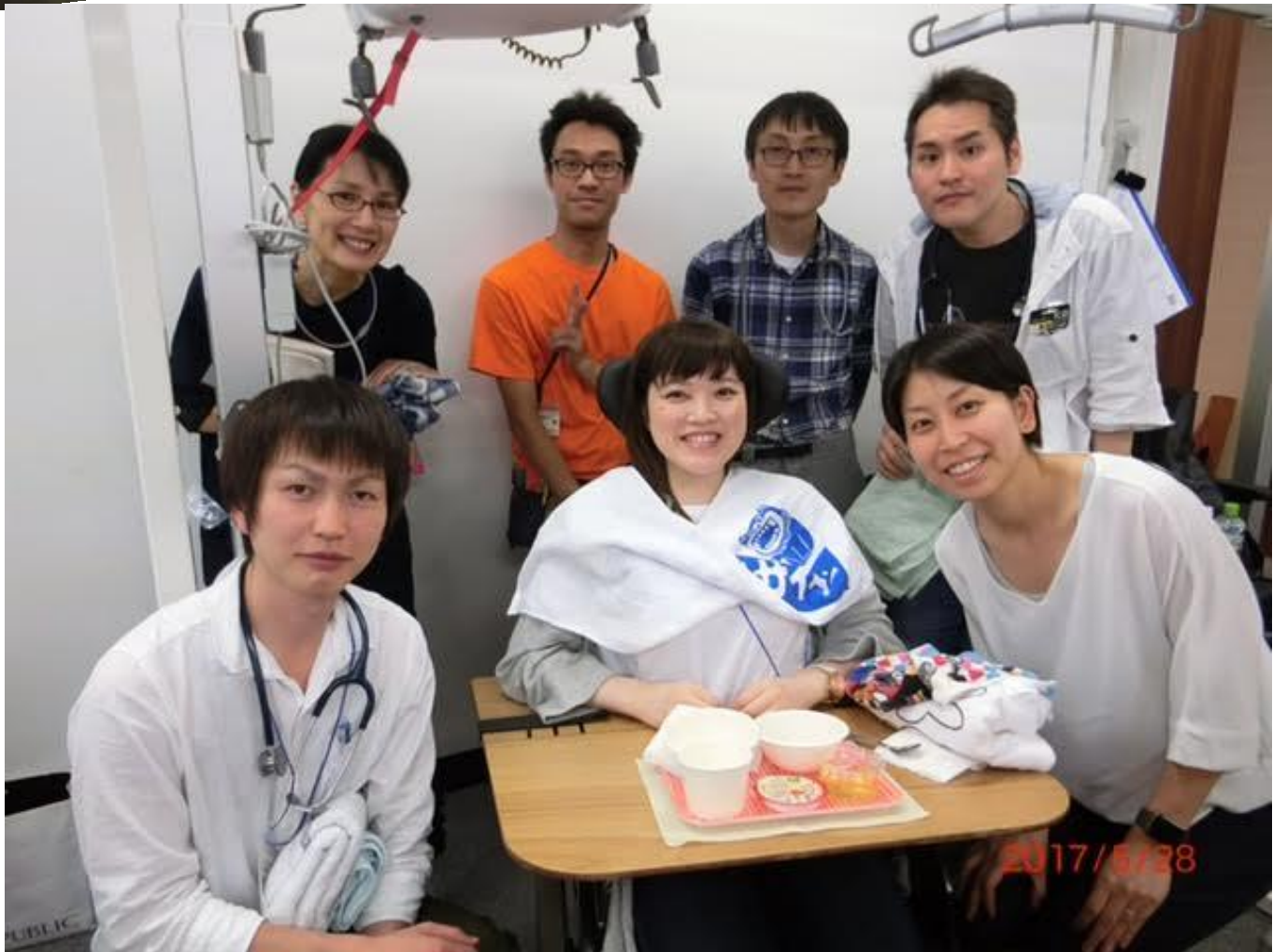
1グループ



2グループ



3グループ



4 グループ



5 グループ



6 グループ



7グループ





みなさま、お疲れさまでした！

